

体育科指導案

日時 平成29年2月21日(火) 5校時
児童 6年生
授業者
授業場

1 単元名 器械運動「跳び箱運動」

2 単元の目標

自己の能力に適した課題をとらえ、その課題に応じた練習の場や方法を選び、基本的な支持跳び越し技を安定してできるよう、仲間とともに技のポイントを共有しながら、課題解決を目指し、基本的な動きを身に付けていくことができるようにする。

3 単元について

(1) 単元観

跳び箱運動は、自己の能力に合った基本的な支持跳び越し技（切り返し系・回転系）や発展技を安定した動きで行うことができるようにすることをねらいとしている。跳び箱運動は、支持跳躍運動によって物的障害（跳び箱の高さ）に挑戦し、「跳び越すこと」に運動の価値をおく「克服型」と空中局面における出来ばえや優雅さに運動の価値をおく「達成型」と二つの側面がある。小学校段階では「跳び越すこと」に運動の価値をおいた「克服型」にねらいをおき、単元を構成する場合が多い。しかし、恐怖心をもちやすい、自分の動きを確認することが難しいなど、「跳び越す」ことに価値をおいた場合「できる」「できない」がはっきりしてしまい、技能の高まりを実感できず苦手意識を持ちやすい。そのため、小学校段階から「克服型」の価値のみに終始することなく、「達成型」の価値にも触れ、一人一人が自分の技の伸びや高まりを実感しながら、跳び箱運動の楽しさを深く味わえるようにしていくことが大切になる。

また、跳び箱運動は日常では経験することが少ない動きが多く含まれ、特に、「第二空中局面」における跳び箱の向こう側に行く感覚は、「跳び箱が跳べない」児童にとっては、経験がまったくない動きとなる。そのため、跳び箱運動と関連の深い易しい動きを体験できる場を十分に確保していくことが大切である。

(2) 目指す児童像

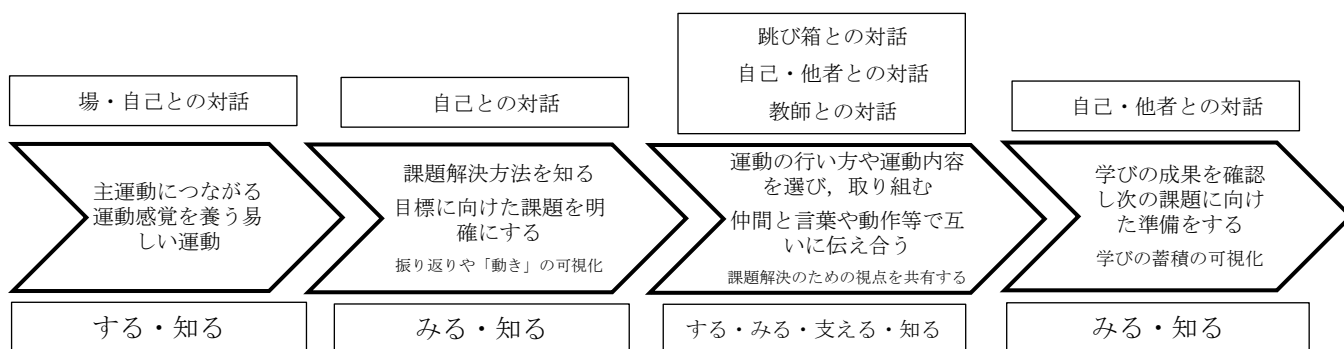
省略

(3) 指導観

上記の2点を踏まえ、本単元では、どんな児童でも、よりよい動きを身に付けていくためにどうしたらよいかという思考を促せるようにしていく。そのために、課題解決方法を知り、自分または友達の良い動きや改善すべき動きを互いに伝え合うことができる力を育てていく。そして、「する・みる・支える・知る」の「見方・考え方」を一単位時間の中にそれぞれの「対話」と関連付け学習過程を取り入れて単元を構成していく。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

「見方・考え方」と「対話的な学び」を関連付けた学習過程の工夫（1単位時間）～Ⅰ



まず、主運動につながる運動感覚を養う易しい運動を位置付けることで「場との対話」を保障する。易しい運動を「する」ことによって、踏切や着手、着地など各運動局面の感覚を「知る」。そして、今までの学びを振り返り、自己や他者の動きを「みる」ことで目標に向けた課題を明確にし、その解決の方法を「知る」時間を確保する。そこから、運動の行い方を選んだり、仲間と交流したりしながら課題解決を目指す。その運動について振り返りながら、次なる課題を見付けていくような学習過程にしていく。

課題解決のための「共有する視点」を引き出す発問の工夫【小学校】～Ⅱ

本単元では、「安定した技を身に付けること」が大きな目標となる。その目標に向けた課題は、開脚跳びで言えば「助走」「踏切」「着手」「突き放し」「着地」と各運動局面別に見えてくる。課題解決のために、各運動局面の練習をしてから開脚跳びにチャレンジするという展開では、運動局面別の動きを獲得することが目的化され、本単元の目標に繋がらなくなってしまうため、教師側で「できばえ」に視点を置き展開していく。「できばえ」を3段階で自己評価できるよう「できばえ1」は「なんとか跳びこす」、「できばえ2」は「着地を止める（2～3歩許容）」、「できばえ3」は「着地をピタッと止めることができる」とすることで、着地をしっかりと決めようとする動きを引き出していく。さらに、自分たちの演技している映像と模範演技の映像を比較すると「できばえ3（着地はピタッ）」であっても、動きに違いがあるということに気づかせる。「模範演技と違うところはどこだろう？」という発問をすると、『踏切が強い【助走・踏切】』『手は体を浮かせてから着けている【着手】』『体が伸びている【空中姿勢】』など各運動局面において、より「できばえ」をよくするために大切にしている視点（共有する視点）が引き出されていくと考える。

引き出された視点を基に自分で確かめるべき運動局面や活動場所を選び、繰り返し取り組んでいくことができ、今までの学びの蓄積を生かしながら「見方・考え方」を発揮していくことができる。さらに、跳び越せてはいるけどお尻が跳び箱につきそうな状態であるなど「できばえ1」の場合や、「できばえ3」はクリアしていてもまだ体が投げ出せない状態である場合に「特にどの場面を意識するとより美しくなりそうか」と発問し、大切にしている動きは「これだ」「この動きを意識しよう」と、「共有する視点」を引き出していけるようにする。そうすることで「共有する視点」がより明確になっていき、その視点を基に体を動かしたり（【する】）、共有した視点を基に動きを見合ったり（【みる】）など自己や他者との対話を通して「見方・考え方」を高めていくことができるであろうと考える。

4 評価規準

| 運動への関心・意欲・態度 | 運動についての思考・表現 | 運動の技能 |
|---|--|--|
| <p>ア 技ができたり、高めたりする楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで運動に取り組もうとしている。</p> <p>イ 約束を守り、友達と助け合っ技の練習をしようとしている。</p> <p>ウ 器械・器具の準備や片付けで、分担された役割を果たし、安全を保持しようと気を配ろうとしている。</p> | <p>ア 課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の方法や場を選んでいる。</p> <p>イ 自分が取り組む技のポイントを知り、技ができるようになるため、友達と互いの動きを見合い教え合っ練習することができる。</p> | <p>ア 基本的な切り返し系の技（開脚跳び・大きな開脚跳び）が安定してできる。</p> <p>イ 基本的な回転系の技（台上前転）が安定してできる。</p> <p>ウ 切り返し系の発展技（かかえこみ跳び）ができる。</p> |

5 学びの過程のデザイン

| 下支えする主体的な学び | 学習活動 | 手立て |
|---|--|---|
| <p>自己の課題を解決するための活動の場を選択させる</p> <p>【場の選択】</p> <p>①連結跳び箱 ②跳び箱の高さ ③跳び箱の向き ④ステージ上り ⑤ステージ下り ⑥前転を磨く場</p> <p>【課題となる運動局面の選択】</p> <p>①助走・踏切 ②着手 ③回転（台上）④着地</p> <p>自己の課題解決に向けて必要だと思う場・運動局面を選択させる。</p> <p>学んだ事を生かせる場を設定し、学びの蓄積を可視化する</p> <p>繰り返しチャレンジする場を保障し、学んだ事を意識できるようにする。</p> <p>そのために、教師の肯定的なフィードバック、矯正的なフィードバックを活動している場面から常に行う。</p> <p>フィードバックは子供と共に蓄積してきた技のポイントを言語化したものであり、その言語化したものは掲示物や学習カード等によって可視化していくものとする。</p> <p>自己の課題を解決するための活動の場を選択させる</p> <p>【場の選択】</p> <p>①連結跳び箱 ②跳び箱の高さ ③横跳び越し ④ステージ上り ⑤ステージ下り ⑥踏切壁タッチ</p> <p>【課題となる運動局面の選択】</p> <p>①助走 ②踏切 ③着手 ④突き放し ⑤着地</p> <p>自己の課題解決に向けて必要だと思う場・運動局面を選択させる。</p> | <p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい、流れ、資料の使い方、グループ学習の仕方を理解し、単元の見通しを持つ。 ○主運動につながる運動感覚を養う場における動きのポイントを知る。 ○今持っている力で技に挑戦し、できる技を確認する。（開脚跳び、台上前転、かかえ込み跳び）関ア、イ 技ア、イ、ウ <p>2 時間目～3 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主運動を行うために必要な基礎となる感覚を身に付ける。（かえるの足打ち、うさぎ跳び、横跳び、跳び上がり、回り下り） ○回転系の技（台上前転）における課題を知る。 ○各運動局面別に技（課題解決）のポイントをおさえ、挑戦する。関ア 技イ ○友達と互いの動きを見合い、アドバイスし合う。関イ ○自己の課題に対する振り返りを行い、その後、片付けをする。関ウ <p>4 時間目～6 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主運動を行うために必要な基礎となる感覚を身に付ける。（かえるの足打ち、うさぎ跳び、横跳び、跳び上がり、跳び下り） ○切り返し系の技（開脚跳び・かかえ込み跳び）における課題を知る。 ○各運動局面別に技（課題解決）のポイントをおさえ挑戦する。関ア 技ア、ウ ○友達と互いの動きを見合い、アドバイスし合う。関イ ○自己の課題に対する振り返りを行い、その後、片付けをする。関ウ <p>7 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主運動を行うために必要な基礎となる感覚を身に付ける。 ○高まった力でそれぞれの技に挑戦する。技ア、イ、ウ ※同じ技で取り組む児童同士のグループにする。 ○単元全体を振り返る。 | <p>技の分解図や、映像、示範を通して、意欲を喚起し、跳び箱に挑戦しようとする姿を引き出す。また、跳び箱の高さに挑戦することではなく、動きをより美しく見せることが跳び箱運動の面白さであることも伝える。</p> <p>II</p> <p>台上前転の分解図をもとに「台上の姿勢」に着目し、「まっすぐスムーズに転がり着地するには？」と問い、踏切の強さ、腰の高さ、上半身を丸くするなど、大切にすべき視点を共有していく。</p> <p>I</p> <p>【感覚を養う運動】</p> <p>「する・知る（場との対話）」</p> <p>【課題、課題解決方法の理解】</p> <p>「みる・知る（映像・自己との対話）」</p> <p>【活動の選択、チャレンジ】</p> <p>「する・みる（跳び箱・自己との対話）」</p> <p>【共有する視点の確認】</p> <p>「みる・する・知る（教師・自己との対話）」</p> <p>【再チャレンジ】</p> <p>「する・みる・支える（他者・自己との対話）」</p> <p>【振り返り、次時の課題】</p> <p>「みる・知る（他者・自己との対話）」</p> <p>II</p> <p>開脚跳びの分解図をもとに、「できれば・美しさ」に着目し、「さらによくするために必要なポイントはどこか？」と問い、運動局面ごとに大切にすべき視点を共有していく。</p> |

6 本時について（5／7時間目）

(1) 本時の目標

自己の課題に応じた練習の場や方法を選び、仲間とともに技のポイントを共有しながら、安定した開脚跳び（着地がピタッと止まる開脚跳び）を身に付けることができる。

(2) 本時における研究の視点

手立てⅠにおいて「する・みる・支える・知る」を学習過程に明確に位置付ける。手立てⅡでは、課題解決の場面において、「やっぱり大切になるだろうと思う場面はどこ？」と発問することで各運動局面における大切なポイント（視点）を引き出し、共有していく。もともと提示されているポイント（視点）であっても、この発問により、もう一度技のポイント（視点）を確かめ合い、大切な動きを再認識することができ、仲間と言葉や動作で互いに動きのこつを伝え合う姿を生み出していくことができると考える。

(3) 本時の展開

| 学習活動 | 主な働きかけ・手立て | 【評価】 個に応じた指導（▲） |
|--|---|---|
| <p>1 感覚を養う運動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日もどンドン体を動かすぞ。 ・うさぎ跳びの手の押しを意識する。 ・ステージ上りは思い切った前傾姿勢。 ・ステージ下りの体の向きに注意。 <p>2 単元の目標、本時の課題について確認する。 自分の身体を思いのままに動かす ⇒「できばえ3をより美しくする」</p> <p>3 活動の場を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステージ上りでしっかり踏切の練習をしよう。 ・ステージ下りで練習してから挑戦しよう。 ・踏切の位置（ロイター板）を少し離そう。 <p>4 選択した場で開脚跳びにチャレンジする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝を使って着地しよう。 ・手を押すようにして体を起こそう。 ・いきおいを調整したけど、うまくいかない。 ・この時の姿勢を見ていてね。 | <p>手立てⅠ</p> <p>【感覚を養う運動】 「する・知る」 場との対話</p> <p>↓</p> <p>【課題、課題解決方法の理解】 「みる・知る」 映像・自己との対話</p> <p>↓</p> <p>【活動の選択、チャレンジ】 「する・みる」 跳び箱・自己との対話</p> | <p>□うさぎ跳び「トン・トン（手）」 ステージ上り「踏切強く」 ステージ下り「トン・パッ・トン」 ※手の位置、足の位置に目印を置く。 □意識するポイントを積極的に声をかけ、繰り返し体を動かす意欲を喚起する。 □目標、課題を素早く確認できるよう板書の工夫を行う。</p> <p>□活動の場を選択させる（連結跳び箱、跳び箱の高さ、横跳び越し、ステージ上り、ステージ下り、踏切壁タッチ）。また選択した理由をグループごとに問い、個の確立を図る。 A-①</p> <p>□即時的にフィードバックしていく。 【フィードバックしていく言葉】 肯定的～踏切が強くていい。お互いチェックし合っている。挑戦している。声のかけ合いがよい。 矯正的～ステージ下りで練習してみよう。体をもっと起こす。手でもっとドンと押す。踏切は思い切っている。</p> |
| <p>5 できばえと美しさポイントを思考し直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地の仕方に気を付ける。 ・踏切は強い方がいい。 ・体を起こすために、手で押す。 <p>6 もう一度開脚跳びにチャレンジする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手でドンと押す。 ・体を起こしてから着地する。 ・着地は、前を見て膝を使うといいよ。 ・もっとふわっとなるように跳ぶ。 | <p>【共有する視点の確認】 「みる・する・知る」 教師・自己との対話</p> <p>↓</p> <p>【再チャレンジ】 「する・みる・支える」他者・自己との対話</p> | <p>▲グループの中で決定させ、それをもとに活動させる。</p> <p>A 選択した場で着地を安定させ、ピタッと止めることができ次の技にすぐ入ることができる姿勢である。</p> <p>△ロイター板の位置を遠くにしてもできる？</p> <p>B 着地の時にピタッと止めることができる（2～3歩まで許容する）。</p> <p>C どうか跳びこす、または跳びこせない状態。【運動観察】</p> |
| <p>7 今日の体育を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地がピタッと止まった。体を起こすことが大切だ。 ・着手が前よりよくなった。 | <p>【振り返り、次時の課題】 「みる・知る」 他者・自己との対話</p> | <p>▲着手、体を起こすことをポイントにアドバイス。 ▲横跳びの場で跳び越える感覚を養う。</p> |
| <p>8 整理運動、後片付けをする。</p> | <p>□もう一度チャレンジする場を設け、共有した視点を基に即時的にフィードバックしていく。 □振り返る視点は「着地をピタッとできたかどうか。」また、そのために大切になる動きを言葉で表現させる。 A-②</p> <p>次なる課題へ</p> | |

場の設定

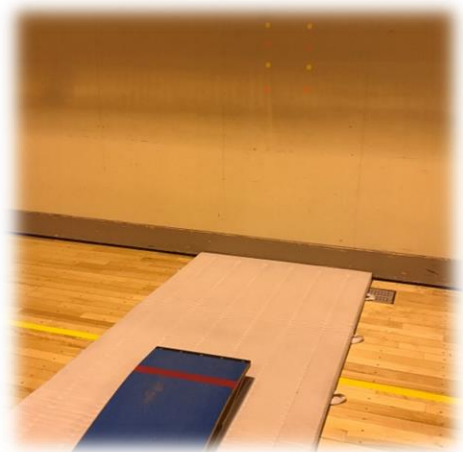
①ステージ上り・下り



②連結跳び箱



③踏切壁タッチ



④ロング跳び箱・スタンダード跳び箱



⑤横跳び越し



開脚跳び

【助走】



3～5mほどの助走

ぼくの、わたしの気を付ける点

【踏切】



手を前に出し、両足で強く踏み切る。

ぼくの、わたしの気を付ける点

【着手】



足を開いて、両手を跳び箱の前方につける。

ぼくの、わたしの気を付ける点

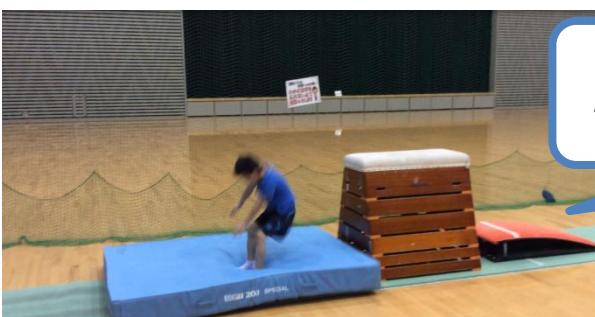
【突き放し】



着地マットを見て、手より顔を前に出し、両手で跳び箱を強く押す。

ぼくの、わたしの気を付ける点

【着地】



膝を軽く曲げ、両足を揃えて着地する。

ぼくの、わたしの気を付ける点

かかえ込み跳び

【助走】



3～5mほどの助走

ぼくの、わたしの気を付ける点

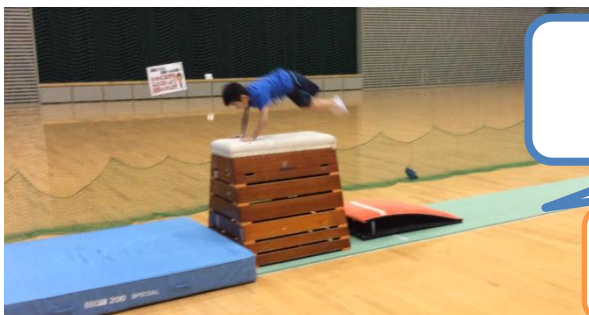
【踏切】



手を前に出し、両足で強く踏み切る。

ぼくの、わたしの気を付ける点

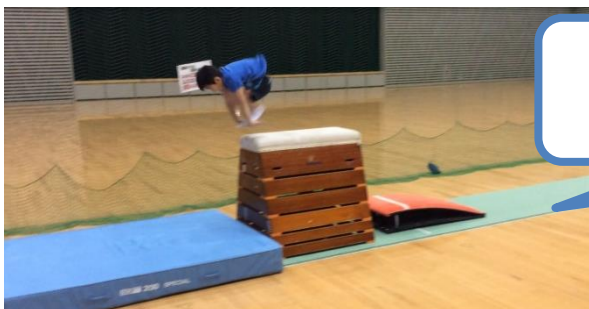
【着手】



足を閉じて、両手を跳び箱の前方につける。

ぼくの、わたしの気を付ける点

【突き放し】



足先を前に向け、膝を胸に引きつけ、両手で跳び箱を強く押す。

ぼくの、わたしの気を付ける点

【着地】



着地マットを見て、膝を軽く曲げ、両足を揃えて着地する。

ぼくの、わたしの気を付ける点

台上前転

【助走】



3～5mほどの助走

ぼくの、わたしの気を付ける点

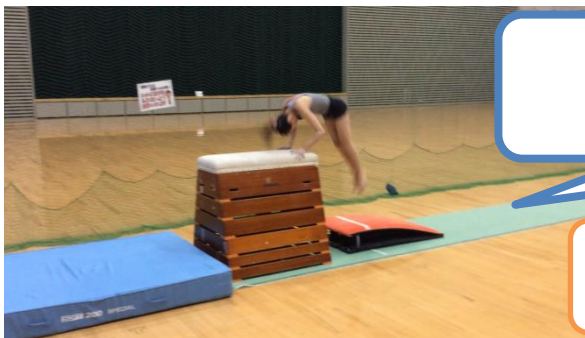
【踏切】



手を前に出し、両足で強く踏み切る

ぼくの、わたしの気を付ける点

【着手】



両手を跳び箱の手前につき、
腰の位置を高く上げる。

ぼくの、わたしの気を付ける点

【台上】

あごを引いて、両手の間に後頭部をつけ、
背中を丸くする。腰の位置を高く上げる。



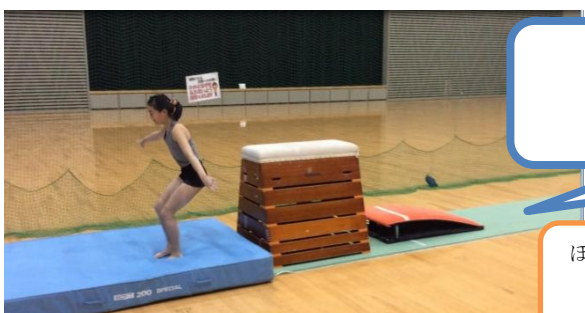
ぼくの、わたしの気を付ける点

手を前に出しながら、腰を跳び箱の
端につけながら、下りる。腰の位置を高く上げる。



ぼくの、わたしの気を付ける点

【着地】



両手を跳び箱の手前につき、
腰の位置を高く上げる。

ぼくの、わたしの気を付ける点